B-17 操業停止の化製場からのハエ類大量発生と日本未記録のハヤトビバエの1種について

○林 利彦・倉橋 弘（国立予防衛生研究所昆虫医科学部）・畠山 貞夫
・佐々木 隆一（宮城県環境生活部）

Mass occurrence of a newly recorded lesser dung fly, *Phthitia empirica* (Hutton), from an abandoned rendering plant.

Hayashi T., Kurahashi H., Hatakeyama S. and Sasaki R.

平成5年11月に閉鎖された仙台市郊外のと畜廃棄物処理兼化製施設より大量のハエ類の発生が確認され、周辺住民の苦情により、宮城県環境生活部及び国立予防衛生研究所昆虫医科学部が共同で調査を行った。同施設は経営悪化により、平成5年9月より化製処理を停止しており、1,000tもの化製原料となる死亡獣畜・と畜廃棄物・食肉工場残渣物・羽毛等が長期間放置されていた。調査を行った平成6年4月には対策として石灰が散布されていたが、オオクロバエ・ミヤマクロバエ・ケブカクロバエ・クロキンバエ・チーズバエ・ハヤトビバエ科の1種、*Phthitia empirica* (Hutton, 1901)等が多数確認された。*P. empirica* フニクハヤトビバエ（新称）は日本未記録であり、その形態・生活史等について報告する。

B-18 イエバエを利用した鶏糞の分解処理 （2）分解効率に影響を与える条件の検討

稲岡 徹 （竹中工務店・技術研究所）

Degradation of chicken feces by using house fly larvae (2) Some conditions influencing on the efficacy of degradation.

Inaoka, T.

イエバエが鶏糞を分解する際のいくつかの条件について検討した。分解の効率は一定量の鶏糞から得られるハエの体重と、目測による鶏糞分解度を指標とした。ハエの体重は蛹化直前の終齢幼虫（生体重）を1とすると、蛹0.69、成虫0.54、成虫の乾燥重量0.10-0.18である。採集地を異にする7個体群のイエバエを用い、種々の条件の鶏糞に産卵させ、成育した蛹の一部の体重を測定し、さらにすべての成虫が羽化した後、個体数をカウントし、乾燥重量を測定して終齢幼虫生体重に換算して、分解効率の指標とした。鶏糞が完全に近く分解されたケースでは、糞1gにつきおよそ2個体以上の羽化が見られた。この時の分解効率は用いた個体群間で大差なく、4-6%であった。